

## 政治・経済

## 第1問 問7 「7」

## 学習した知識を具体的場面で活用する問題で、各学力層で差がついた

問7 下線部⑥について、日本の国政選挙制度に関する生徒Xと生徒Yの会話文中の空欄  ～  にはまる語句の組合せとして最も適当なものを、後の①～⑧のうちから一つ選べ。

- X：日本の国政選挙制度は、衆議院と参議院で微妙に違うのでややこしいね。  
 Y：選挙区制と比例代表制は、それぞれ長所と短所があって、短所を補いながら衆参の独自性を出そうとした結果、こうなったんだろうね。  
 X：比例代表制は、各党の得票数に応じて議席を配分するけど、ドント式は得票数を1, 2, 3, ……の自然数で割った商の大きい順に議席を配分するんだ。  
 Y：ほかに、得票数を1, 3, 5, ……の奇数で割った商の大きい順に議席を配分するサン・ラグ式もあるね。表1の得票数から8議席を配分すると、ドント式よりもサン・ラグ式のほうが、得票数の  に有利になるね。

表1 ドント式

	A党	B党	C党
得票数	10,000	7,200	4,500
1で割る	10,000	7,200	4,500
2で割る	5,000	3,600	2,250
3で割る	3,333	2,400	1,500
4で割る	2,500	1,800	1,125
5で割る	2,000	1,440	900

サン・ラグ式

	A党	B党	C党
得票数	10,000	7,200	4,500
1で割る	10,000	7,200	4,500
3で割る	3,333	2,400	1,500
5で割る	2,000	1,440	900
7で割る	1,428	1,028	642
9で割る	1,111	800	500

注) 割り切れないものは、小数点以下を切り捨て、整数であらわしている。

- X：現在の衆議院と参議院の比例代表の制度から、表2、表3のケースを例に当選のシミュレーションをやってみよう。衆議院・参議院とも、表1の得票数をもとに、現在採用されているドント式で8議席を配分する。また、各党はそれぞれに5人ずつ候補者を立てていて、B党の衆議院の候補者は、小選挙区と比例代表に重複立候補し、5人とも小選挙区で落選し、比例代表で復活当選をめざしているという前提で考えよう。  
 Y：衆議院議員総選挙でB党の候補者が表2のような状況だとすると、候補者ハは 。また、参議院議員通常選挙でA党の候補者が表3のような状況だとすると、候補者又は 。惜敗率や特定枠のことも考えなければならないので、当選者の決定は少し複雑だね。

表2 衆議院議員総選挙でのB党の候補者

候補者	名簿順位	小選挙区での惜敗率
イ	1位	55%
ロ	2位	50%
ハ	3位	75%
ニ	3位	60%
ホ	3位	90%

表3 参議院議員通常選挙でのA党の候補者

候補者	特定枠	個人の得票数
ヘ	特定枠1位	500票
ト	特定枠2位	1200票
チ		600票
リ		2300票
ヌ		1400票

- ① ア 多い政党 イ 当選する ウ 当選する  
 ② ア 多い政党 イ 当選する ウ 当選しない  
 ③ ア 多い政党 イ 当選しない ウ 当選する  
 ④ ア 多い政党 イ 当選しない ウ 当選しない  
 ⑤ ア 少ない政党 イ 当選する ウ 当選する  
 ⑥ ア 少ない政党 イ 当選する ウ 当選しない  
 ⑦ ア 少ない政党 イ 当選しない ウ 当選する  
 ⑧ ア 少ない政党 イ 当選しない ウ 当選しない

## 第1問 問7 「7」

正解率	32.3%
SS70～75	71.6%
SS65～70	61.9%
SS60～65	53.3%
SS55～60	44.8%
SS50～55	34.8%
SS45～50	26.9%

2023年度第3回ベネッセ・駿台  
大学入学共通テスト模試  
「政治・経済」

受験者数:	26,217人
平均点:	44.0点
標準偏差:	15.6

## 政治・経済

## 第1問 問7 「7」

学習した知識を具体的場面で活用する問題で、各学力層で差がついた

## 結果分析

第1問の問7は、衆議院と参議院の比例代表制の選挙における当選者の決まり方についての知識を、具体的な場面で活用することで当選者を考察する問題で、各学力層で差がみられました。

まず、衆議院と参議院の選挙制度の違いについて、特定枠といった時事的な事項も含めて正確に理解しておくことが求められました。そのうえで、具体的な得票数をもとに、それぞれの制度下でどの候補者が当選するかを考察する力が求められました。正確な知識とともに、具体的な数値に置き換わっても身につけている知識を活用できたかどうか、各学力層の差に出たのだと考えられます。

## 指導のご提案

政治・経済の共通テストでは、抽象的な知識を具体例で考察したり、逆に具体的な事例を抽象的に整理したりする出題が予想されます。政治・経済の学習を進めるうえで、両方の観点からさまざまな事象の理解を深めることが大切です。

また、教科書を一通り終了し、問題演習を通して知識の定着・確認や、新しい設問形式に対応する演習を進められている時期だと思います。共通テストの問題が思考力を問うものへと変わっても、土台となる知識は必要です。模試や問題集で正解した問題であっても解答する際に曖昧な部分が残っていないか、解説でしっかりと確認し、改めて教科書や資料集で知識を整理することが重要となります。